



いわき平ロータリークラブ週報

創立 1953.6.18

承認 1953.6.29

<http://iwakitaira-rc.jp/>

■事務局 / 福島県いわき市平字白銀町 4-13 不二屋第二ビル2F

(0246) 25-3000

■例会場 / いわきワシントンホテル椿山荘

(0246) 35-3000

■例会日 / 毎週木曜日 p.m.12:30 ~ 13:30

会長：関口 武司 幹事：有賀 行秀 発行：会報・広報委員会

第 3117 例会 (8号) 2018 年8月 30日 (木) 晴

外部卓話 SPEECH

骸骨の寓意



いわき市立美術館長

佐々木 吉 晴 会員

本題に入る前に、人類の脳に関して、関口会長のお話の続きをちょっとさせていただきます。紀元前5万年にネアンデルタール人とクロマニヨン人が登場し、最終的に私たちの祖先のクロマニヨン人が残りました。大柄なネアンデルタールに対して小柄なクロマニヨンが勝利した要因は「創造する力」の差と考えられます。さまざまな壁画はクロマニヨンが残したものばかりで、ネアンデルタールの遺骨は発見されていますが、壁画などは一切発見されていません。文明、文化の決め手となるものは芸術的表現です。人類はクロマニヨン人が支配してから芸術を取り込んで成長してきたと言えると思います。

さて、本日は「骸骨の寓意」をテーマに話させていただきます。いくつかのキーワードがあります。美術は、見る、読むという行為が加わり、幅が広がり、楽しいものになってきます。美術の様式や技法などさまざまな要素がありますが、その中の寓意に関してのお話です。

骸骨は死の象徴です。西洋の絵画においては、取って骸骨、ドクロを描かないで死を暗示するという方法があります。その一つ、17世紀初頭、仏人画家ニコラ・プッサンが描いた作品「アルカディアにも私はいる」があります。理想郷であるアルカディアに羊飼いがのんびりと暮らしている牧歌的な作品です。あるとき、そこで石碑を見つけ書かれた文字を読みます。「アルカディアにも私はいる」。誰がいるのでしょうか。描かれてはいませんが、それが「死」なのです。楽しく暮らしていても死から免れることはできない。ドクロを描かないで、寓意として表現しています。

直接表すこともあります。「死は等しくすべての

者に」という古代ローマからいわれている言葉があります。金持ちにも貧しい人にも死は訪れます。中世から近代に掛けて描かれた銅版画集には、着飾った金持ちの隣に、その人たちには見えないけれど踊っている骸骨がいるという作品があります。気づかないけれど、あなたたちにはもうすぐ死が訪れるんだ、ということを暗示しています。死を骸骨が踊ったり、楽器を鳴らすしぐさで表現してきた作品が、だんだんと分かりづらく描く作品に変わっていきます。エストニアの聖ニコラス教会に「ダンス・マカーベル (死への舞踏)」の最高傑作という作品があります。ベルント・ノトケという画家が描きました。作品の中に骸骨がいくつか描かれていて、王侯貴族を審問官のところ連れて行くという作品です。最後の審判は避けることはできないということです。

次に「メメント・モーリ (死を想え)」です。死を考えるとすることはすなわち、生きる意味を考えるということです。西洋美術ではこれが絵画表現になって表れます。ドクロを見ながら生きる意味を考えなさいということです。ワニタス (むなしさ) という言葉があります。どんなに権力があっても、お金があっても人は必ず死ぬ。なぜ人をおとしめてまで権力を求めるのか、という考えです。カラヴァッジョの「聖ヒエロニムス」という作品では清貧の中に生きた聖人が赤い布をまとっています。赤い布は天上世界での権力を示しています。隣に描いたドクロを通して死を見つめている、生きる意味を考えることを表現しています。カラヴァッジョは光と影を使うバロック式の画法の先駆けとなった作家です。

ジョルジュ・ド・ラ・トゥールの「マグダラのマリア」ではキリストの重要な使徒であるマグダラのマリアがドクロを手にして、ろうそくの炎を見つめています。これも生きる意味を考えるという寓意が込められた作品です。ハンス・ホルバインの「大使たち」という作品には正面から見ても分らないように骸骨が描かれています。ホルバインは宗教画を描いていましたが、宗教戦争で描くことができなくなり、イギリスに渡って宮廷画家として創作活動を続けていました。「大使たち」はその時期の作品で、大使と使徒がヘンリー8世に謁見しようとする様子を描きました。足元に描かれているものが何かは正



2018~2019年度
国際ロータリーのテーマ

「インスピレーションになろう」

BE THE INSPIRATION

「出席はロータリアンの3大義務の1つです」

面から見れば分かりませんが、斜めから見るとドクロが見えます。寓意の最たるもので、遠回しに恐ろしさを表現しています。

静物画というものがあります。今では美しい花などの作品を示しますが、本来は動かないものを描くことで死を寓意で示すものでした。17世紀はじめのピーテル・クラースの「静物」はドクロとろうそくの炎、花、時計などを描いています。いつかは消える炎、炎による明と暗、いつかはかれる花、無限ではない時間などで死を寓意的に表現しています。生きる意味を考える作品です。ヤン・ブリューゲルの「花瓶の花」は美しい花が描かれていますが、これも永遠ではなく、むなしさや死への寓意を込めた作品です。19世紀以降になると美しさのみを追求して寓意性は失われていきます。

骸骨はスケルトン、ドクロはスカル、これがメキシコに渡ってカラベラと呼ばれます。カラベラを描いて、故郷いわき市に戻ったのが画家峰丘さんです。11月3日から12月9日まで市立美術館で「峰丘展 カラベラへの旅」を開催します。ぜひ、ご覧ください。

司会：有賀幹事

〔点鐘・ロータリーソング（奉仕の理想）・四つのテスト（新城美樹雄会員）〕

新城美樹雄会員



★ 誕生日祝



鈴木 東雄さん
(8月10日)



池田 直彦さん
(9月2日)

ハッピーバースデーソング斉唱

◆会長挨拶ならびに報告



今日は人類の脳の発達について話させていただきます。人類が誕生して700万年が経ちますが、450万年間は脳は発達しませんでした。脳は人間の体重の2%しかありませんが、使うエネルギーは全体の20%から25%も使います。450万年間は食料が乏しく、植物性の食料ばかりで、消化するために腸でエネルギーを多く使いました。250万年前、ホモ族が誕生しました。石器を作るようになり、石器を使って栄養豊富な動物を捕らえて食べるようになって徐々に脳が大きくなり、組織も発達しました。70万年前に誕生し

たホモ・ハイデルベルゲンシスは狩りをしたり、住居を建てたり、火や道具を使うようになりました。30万年前、ホモ・サピエンスの誕生で現在に至ります。

11月24日に地区大会が開催されます。ぜひみなさん、ご出席ください。

◆幹事報告

○いわき桜、いわき勿来、いわき平東、いわき内郷の各ロータリークラブより会報が届きました。

委員会報告

◆出席委員会（五十嵐敦副委員長）

例会日	基本会員数	出席者	メーキャップ数
8月30日	52名	21名	—

◆ロータリー財団委員会（代理・大久保健蔵会員）

関口武司さん。

以上1件

◆米山記念奨学会委員会（大久保健蔵委員長）

関口武司さん、大久保健蔵さん、山崎洋次さん。

以上3件

◆スマイルボックス委員会（常葉修一委員長）

♥関口武司さん（佐々木館長さん卓話宜しくお願ひします）♥曲山浩範さん（佐々木館長さん宜しくお願ひ致します）♥高橋康二さん（佐々木様、卓話よろしくお願ひします）♥大久保健蔵さん（佐々木館長卓話よろしくお願ひいたします）♥八幡恭朗さん（佐々木館長卓話よろしくお願ひします）♥山崎洋次さん（佐々木館長、卓話よろしくお願ひいたします）♥佐々木貢一さん（佐々木吉晴様卓話よろしくお願ひします）♥森雄治さん（佐々木館長卓話よろしくお願ひします）♥清水和政さん（佐々木さん、卓話宜しくお願ひします）♥鈴木東雄さん（誕生日祝、ありがとうございます。1ヶ月のごぶさたです。これからもよろしく）♥池田直彦さん（誕生日祝ありがとうございます）♥新城美樹雄さん（先週は卓話お世話になりました）
以上12件

★本日の例会案内 9月6日（木）12：30～

雑誌委員会担当卓話 鈴木東雄雑誌委員長

お食事メニュー＝桜姫鳥とキノコのフリカッセ

★次回の例会案内 9月13日（木）12：30～

外部卓話 JICA青年海外協力隊 阿部翔太様

お食事メニュー＝鮭の幽庵焼き 雲丹の炊き込みご飯